

福山市立多治米小学校 スタートカリキュラム計画

学校教育目標

自ら考え学ぶ子どもの育成

- 明確な目標を立て、目標に迫る方法を自ら考え、最後まで取り組むことができる子
- 自分の意見を持ち、根拠を持って相手に伝えることができる子(自己表現力)
自分の考えを比べながら相手の話を聴くことができる子
- 自分に自信を持ち、相手の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる子

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
育 っ て ほ し い 児 童 の 姿	入学当初の児童の姿 ・体を動かしたり、物を作ったりするのが好きで意欲的に取り組む。 ・小学校に対する期待感、がんばりたいという気持ちをもっている。 ・友達と一緒に過ごすのが好きだが、うまく思いが伝わらないことがある。 ・失敗や間違いへの不安があり、自信がない子もいる。 お兄さん、お姉さんはすごいな。私達もあんなふうになりたいな。できるかな? 小学校ではどんなことをするのか? もっと知りたいな。早くやりたいな。 小学校はどんなところかな? 友達できるかな? 給食はおいしいかな? 自立 自分の考えをもち、友達に伝えている。友達の考えを最後まで聞いている。 成 「なぜ?」「どうして?」「やってみたい!」という思いをもって、積極的に活動に取り組んでいる。 安 友達や先生と意欲的に関わっている。係活動や当番など、自分の仕事に責任をもって取り組んでいる。 期待する児童の姿 ○「あそび」と「経験」を学びにいかし、課題に取り組む。 ○「体験」「経験」にもとづいた「ことばによる」表現力を身に付け、友達・他学年・園所の子ども達に伝える。											
主 な 学 習 活 動	【がっこうだいすき】 生活「小学校生活はじまるよ」 国語「なんていおうかな」 生活「2年生と学校探検」 国語「こんなもの見つけたよ」 算数「10までの数」 道徳「明るいあいさつ」 学活「はじめての小学校」 【ともだちだいすき】 生活「友だちとなかよし」 「学校となかよし」 「生き物となかよし」 「花や野菜となかよし」 「学校に来る道帰る道」 「おもしろい遊びがいっぱい」 国語「どうぞよろしく」 「集まって話そう」 音楽「歌っておどってなかよくなろう」 図工「砂や土となかよし」 生活科「友だちとなかよし」の様子 生活科「学校に来る道帰る道」の様子 生活科「おいでよ秋のテーマパーク」「新1年生を迎える会」の様子											
(人・もの・こと)	人 ・児童の話をよく聞き、肯定的な声かけをしたり、必要に応じた個別の支援をしたりして、信頼関係を築く。 ・保護者・管理職・養護の先生・支援学級の先生・介助の先生などと連携をとり、児童の変化や様子について共有し、指導にいかす。 ・異学年との関わりを大切にし、安心して楽しく過ごすことができるようにする。 6年生→給食・掃除・朝の支度・休憩時間など 2年生→生活科の関わり ・自分の思いを表現したり、友達の考えを聞いたりして、お互いの良さを認め、友達と一緒に学習したり生活したりする良さが感じられるようにする。 ・挑戦している姿や友達と協力している姿を認めることで、自信をもたせ、お互いに認め合い安心して過ごすことができるような雰囲気作りを行う。 もの ・登校してからの準備や生活の流れ、施設の使い方等、全ての児童に分かるように絵や写真を活用する。 ・いつまでに何をするのが分かるように時計やタイマーを用いた視覚支援を行う。 こと ・カリキュラムマネジメントを積極的に行い、合科的・関連的な授業作り、体験的な活動、具体物を使った学習、視覚支援等を行い、学習と生活がつながるようにする。 ・4月は朝の時間に、読み聞かせをしたり絵を描いたりして、柔軟な時間設定をすることで、登校から1時間目までをゆったりと過ごすことができるようにする。 ・幼児期に親しんだ手遊び、歌、折り紙などの活動を取り入れる。 人 ・活動内容によって、柔軟な学習形態を取り入れる。【場所・・・運動場・体育館・廊下・プール 人数・・・ペア・グループ・学年合同】 ・縦割り班での異学年との関わり、地域の人との関わりをもち、場に応じた行動や言葉遣いをしたり、自分から人に関わろうとする姿勢を身に付けたりする。 もの ・使いたいものが手に取れる場づくりをする。(テープ・ペン・ボンド・廃材置き場の廃材など) ・学校のルールや役割、仕事の手順などが分かるようイラストや言葉で掲示し、自信をもって取り組むことができるようにする。 こと ・運動会・音楽発表会・マラソン大会など、学校行事を軸にしてスモールステップの目標をもち、達成感をもつことができるようにする。											
園・所との連携	・幼保小連携協議会行い、保育所の時の様子を聞き、情報共有をする。また、生活科の学習で1年生と年長さんの交流が可能かどうか打診する。 ・長期休業中に保育所の様子を参観させてもらい、保育所の先生方を招いて幼保小接続に関する研修会を行う。 ・生活科「学校に来る道帰る道」の学習で、保育所の年長さんに、安全に生活するための道路標識の意味や子ども110番の家の場所について発表する。 ・生活科「おいでよ秋のテーマパーク」「新1年生を迎える会」の学習で、小学校の中を案内したり、1年生が作ったゲームで遊ばせてあげたりすることで、年長さんが小学校生活に対して見通しや期待感を感じることができるようになる。											
組織との連携	・読み聞かせや登下校の見守り等のボランティアなど、児童への声かけ・見守りを通してたくさんの人に支えてもらう。 ・児童が安心して小学校生活が送れるよう、ネウボラ・教育委員会等と連携する。 ・長期休業中の研修で、スタートカリキュラムの内容について全職員に周知する。 ・必要に応じ、特別支援コーディネーター・通級指導教諭も交えて児童の相談や指導の改善について話し合いの場をもつ。 ・スタートカリキュラムの編成に向けて、今年度の反省・次年度に向けた改善を行う。											
家庭との連携	4月 ・朝の過ごし方、学校の様子について通信等で発信し、情報を共有する。 ・学級懇談会で1年の流れや幼保小の接続について説明し、保護者の方に安心感をもってもらう。 ・学校生活の頑張りや気になる点について連絡帳や電話等で保護者の方に丁寧に伝え、児童の入学時の不安や緊張を理解してもらい、小学校と家庭が協力して児童を支えられるよう連携する。 通年 ・図画工作科・生活科の学習で使う材料集めの依頼をする。 ・個人懇談で児童の頑張りや課題を共有し、協力をお願いする。 ・学校生活の様子・成果・課題について、学年通信を使って情報発信する。											
備考欄	・特別支援学級担任との連携を蜜に行い、特別支援学級在籍児童と一緒に1年生としての集団作り、お互いが安心できる居場所作りを行う。											